

# 地域医療連携室だより

2019年度 第2号 9月



## 第2回高齢者研修会開催！！ 今求められる「看取り医療」について語る

去年から名称も新たに開催しております高齢者医療研修会。第1回に引き続き、金子副院長が「虚弱（フレイル）高齢者への治療の差し控えと医療倫理」について講演を行いました。今回も院内外から、外部事業所のケアマネジャー含め、約130人の方々に参加していただきました。

今回の研修会では、「老いとフレイル」「終末期とケア、エンド・オブ・ライフケア」「事前指示と治療の差し控え」「医療倫理・職業倫理・臨床倫理」などの解説を行っていました。

支援を行っていく中で、患者さん・ご家族が意思決定を求められる場面は様々あり、どのような治療を希望するか、最期をどのように迎えたいか、ということもその場面の1つです。今は「事前指示（生前意思）」という言葉もあり、自己決定能力のあるうちに、将来、意思決定できない時に備えて、「同意する治療内容を指示する」ことで患者さんの希望に沿った支援を行うことが可能となるよう取り組まれています。金子副院長は研修会の最後に、まとめとして「治すことだけが医療ではない」「医療にとっての敗北は、患者を死の苦しみから救えないこと」「自己決定を尊重し、尊厳ある生き方を支え、最期を見取る医療の推進が求められる」と話していました。

今回の研修会は、去年に行われた「アドバンス・ケア・プランニングについて」とも深く共通する部分があり、今後もこういったテーマに多く関心が寄せられていくのだと感じます。研修会終了後に回収したアンケートでも、「難しい内容ではあったが、参考になった」「今後の対応事例に照らし合わせて活かしていくたい」との好評の声をいただきました。

今後も講座や研修会等を開催する際は、皆様の参加をお待ちしております。



# 第6回地域協議会開催される！



JCHO 秋田病院の第6回地域協議会（委員長・山須田能代市山本郡医師会長）は、7月10日（水）18時30分から当院で開かれ、平成30年度の事業概況と令和元年度計画、病棟アンケートなどで寄せられた利用者の声とその対応などを報告いたしました。

地域協議会は、当院の利用者や関係者の意見を聴き、地域の実情に応じた運営を行うため年3回（協議会1・分科会2）開催しており、第6回は行政・医療・住民・当院関係者ら25名の委員中、24名（代理出席含む）が出席しました。会議に先立ち、石岡院長から「JCHOが発足して丸5年が経過し、JCHOの第1期中期5カ年計画も無事クリアすることができました。

今年度から新たな第2期中期計画に入って新たなスタートを切りました。本日は、皆さまから忌憚のないご意見ご要望を賜り、今後の病院運営に活かして参りたいと存じます。」と挨拶がありました。

病院側からの報告後、地域包括支援センターの運営、介護職員の充足、スタッフの接遇、病床の転換・削減が盛り込まれている地域医療構想の動向などについて意見や要望が出されました。この他、住民代表委員からは、「近所に1人暮らしや高齢者の2人暮らしなどが多くなり、この地域の人口減少・少子化問題の現状に非常に危機感を抱いている。市内3病院が今後の医療提供についてどう考えているのか。」との声が出され、委員長から2025年問題、2040年問題など今後地域の皆さんと一緒に考えていくべき問題として引き続き関心を持って対応していくましょうと提案が出されました。

来年1月には本年度第2回分科会を予定しており、当院では、今後もこのような意見を踏まえ、地域包括ケアの要となる病院づくりを目指して、真に地域に必要とされる病院となるべく職員一同努力して参りたいと思います。

## 第2回健康講座開催

皆様からご好評をいただいている「健康講座」。今年度も年4回を予定しており、すでに5月に1回目、薬剤部長による「知って得する薬の知識～クスリをリスクにしないために～」を開催しました。

そしてこの度7月18日、「痛みについて～患者を笑顔にしたい～」というテーマで、総合医（麻酔科）の鈴木紀行医師が講演しました。鈴木医師は、「痛み」についてホワイトボードで図を用いながらの説明や、「痛み」に対し注射に頼った対処方法、注射に頼らない対処方法等について話されていました。

当院で、麻酔科による講座は初めてということもあってか、講演終了後も質問の声は止まず、受診してみたいと思った方もおり、皆様「麻酔」という分野に強く興味を持って帰られたように感じます。

講演終了後に提出していただいたアンケートには、「一度痛みがある場合は、麻酔科を受診してみようと思った」「注射でなくとも、痛みがとれる体の動かし方でよくなる方法があることが分かった」などのご感想がありました。また、当院に対する要望として、「講座の開催時間」について、「いつ・どのように行っているのか、1階や受付に表示してほしい」とのご意見もありました。多くの方々に参加していただけるよう、今後は皆様により分かりやすく情報を提示できるよう工夫してまいります。

今後も9月と12月に健康講座を開催する予定です。詳しい日程やテーマについては、追って皆様にお知らせいたしますので、今後ともご参加の程、よろしくお願い致します。

痛みについて～患者を笑顔にしたい～  
総合医（麻酔科）鈴木紀行医師



## 認定看護師からのお知らせ～第3回～

# ～フットケアで心掛けていること～

(糖尿病看護認定看護師 加藤美由紀)

昨年、9月よりフットケア外来を開始しました。フットケア外来は毎週月曜日予約制としています。主に足や足趾切断の既往や足病変のある患者など血流障害や糖尿病性神経障害のある方が中心ですが、それ以外にも関節の変形が強く爪切りが出来ない患者や内科医師の依頼で糖尿病患者の採血後から診察までの空き時間を利用して予防的フットケアの支援を行っています。

足浴やマッサージをしながら会話する中で、「気持ちよかった」「言われた通り頑張って足にクリーム塗ってるよ」「今日会うの、楽しみにしていたよ」など患者が自分の足に関心を持ってくれることでやりがいを感じています。

フットケアをする場合4つの枠組みで患者を把握します。その4つとは、「足の状態」「全身状態」「生活状況」「セルフケア状況」です。ただ、足を見るだけではなく、会話の中から患者が普段どんな靴をはいているか、生活の中で畠仕事や、運動はするのか。など患者の生活全体を見ながら、その人がその人らしく生活し「足を大事にする」気持ちが持てるよう支援することを心がけています。

大きな夢ですが地域住民が足を大事にして健康寿命が伸びるように今後も活動したいと思います。



## 職員ペンリレー紹介



# めざせ！軽快ボディー～継続はチカラなり～

理学療法士 三浦大将

リハビリテーション科、理学療法士の三浦大将と申します。「大将」と書いて「だいすけ」と読みます。暑い夏を乗り切るために、髪をパッサリと切り風通しを良くしました。

さて、夏の風物詩といえば甲子園ですね。私も、ハマの番長こと三浦大輔に憧れて野球を始め、現在も毎月のように草野球に参加しています。しかし、今はお腹が重くなり思うように体が動かず、採血でも引っかかるようになり、20代の人たちと比べると急激に老いを感じてきています。

そこで、とりあえず痩せようと思い、筋トレ・ランニングを始めたのですが、なかなか効果は出ません。軽快に動けることを夢見て、もう少し続けてみたいと思います。そして、若者に負けないよう頑張ります。



# 新人特集

今年度も4月より15人の新人職員が当院へ入職しました。この半年近くで、入職してからどのようなことを感じたか、テーマを設け答えてもらいました。皆さんのがれきな声をお届けします！！



## <<テーマ>>

- ①自分の目から見た自部署のいいところ
- ②仕事をする上で一番大事にしていること
- ③目標としている人・憧れている人

①私たち3階病棟の良い所は、スタッフの仲が良いことです。質問には丁寧に教えてくれ、技術面では細やかなフォローをしてくれます。また、体調のことや仕事に慣れたなども気にかけてくれます。仕事の進歩状況などもこまめに話し、相談して協力して仕事をしています。そんな3階病棟の皆さんのおかげで毎日楽しく笑顔で仕事ができます！

(3階病棟 佐々木琴音 田森優希)

①和気あいあいとしていてみなさん優しいところです。いつも笑顔が絶えない明るい職場です。たまに船越補佐がカレーを作つて来てくれます。スペースが効いていておいしいです。

(総務企画課・経理係 伊東風香)

②私が仕事をする上で一番大事にしていることは“接遇”です。不安を抱えて来院される患者様と信頼関係を構築することで、患者様の生活背景やHOPEを聴取することが可能となり、より良い医療を提供できると思います。

(理学療法士 菅原奈津美)

③検査科の先輩方は、患者さんや職員に検査の事で聞かれても分かりやすく対応したり、依頼された検査は迅速かつ正確に報告したりと、誰からでも頼られる検査のプロです。私も先輩方の様な検査技師になりたいです。

(臨床検査技師 本多晴香)

①患者さんの必要度が高い分、技術面で成長できます。また、看護にやりがいがあります。そして、部署内の雰囲気がよく、先輩方と話しながら楽しく過ごせます。

(4西病棟 伊藤紅莉 今井芹奈  
児玉萌々華 柴田彩)

①4階東病棟は笑顔と元気と美人であふれています。急性期で展開の早い病棟ですがその中でも患者様や家族と接する時間を大切に日々過ごしています。誰に声をかけても頼りになる看護師ばかりです。

(4東病棟 伊藤瑠南 東海林志帆  
中嶋美優 森澤樹 )

①私達の所属する放射線科では、職員同士の仲もよく連絡や相談のしやすいため職場の雰囲気に早く慣れることができる環境であると思います。まだまだ未熟ではありますが、患者さんに寄り添った医療を提供できるよう努力していきたいと思います。

(診療放射線技師 菊地優生 豊田尚輝)

## 《編集後記》

猛暑の夏が過ぎ、この連携室だよりが皆様のお手元に届くころには、幾分過ごしやすくなっているでしょうか。秋の味覚を心待ちにしながら、体調管理に気を付け、ますます充実した日々にいたしましょう。

独立行政法人 地域医療機能推進機構

秋田病院 地域医療連携室

秋田県能代市緑町 5-22

TEL : 0185-52-3271 (代表)

FAX : 0185-54-7892 (代表)

TEL : 0185-52-3100 (連携室直通)

FAX : 0185-54-1266 (連携室直通)